

委託業務契約について、次のとおり公募型プロポーザルの参加者を募集しますので公告します。

令和4年5月9日

奈良県知事 荒井 正吾

1. 業務概要

- (1) 業務名 令和4年度 奈良県大規模広域防災拠点建築基本計画作成業務
- (2) 業務場所 奈良県五條市ほか
- (3) 業務内容 ① 計画準備
② 建築基本計画の策定
③ 協議資料等の作成 等
詳細は、別紙「業務説明書」によります。
- (4) 業務量の目安 17,930,000円(消費税込み)を限度とします。
- (5) 履行期限 令和5年3月24日(金)

2. 参加資格

次に掲げる条件を全て満たしていること。

- (1) 地方自治法施行令(昭和22年政令第16号)第167条の4の規定に該当する者でないこと。
- (2) 参加表明書の提出の日から特定通知の日までの期間に、奈良県建設工事等請負契約に係る入札参加停止措置要領による入札参加停止措置(以下「入札参加停止」といいます。)を受けていないこと。
- (3) 会社更生法(平成14年法律第154号。以下「新法」といいます。)第17条の規定による更生手続開始の申立て(新法附則第2条の規定によりなお従前の例によることとされる更生事件(以下「旧更生事件」といいます。)に係る新法による改正前の会社更生法(昭和27年法律第172号。以下「旧法」といいます。)第30条の規定による更生手続開始の申立てを含みます。)をしていない者又は申立てをなされていない者であること。ただし、新法に基づく更生手続開始の決定(旧更生事件に係る旧法に基づく更生手続開始の決定を含みます。)を受けた者については、更生手続開始の申立てをしなかった者又は申立てをなされなかった者とみなします。
- (4) 平成12年3月31日以前に民事再生法(平成11年法律第225号)附則第2条による廃止前の和議法(大正11年法律第72号)第12条第1項の規定による和議開始の申立てをしていない者であること。
- (5) 平成12年4月1日以降に民事再生法第21条の再生手続開始の申立てをしていない者又は申立てをされていない者であること。ただし、同法に基づく再生手続開始の決定を受けた者であっても、再生計画の認可の決定を受けた者については、再生手続開始の申立てをしなかった者又は申立てがされなかったものとみなします。
- (6) 奈良県建設工事等競争入札参加資格のうち、建設コンサルタント「都市計画及び地方計画」部門の資格を有すること。また、「一級建築士事務所」の登録を受けていること。
- (7) 平成24年4月1日以降、公告日までに完了した、国又は地方公共団体(都道府県)

発注の「防災拠点」かつ「建築基本計画」に関する業務の元請実績を有していること。
同一業務に限らず複数の業務による実績を認める。

- (8) この業務を行う期間中、管理技術者（1名）、担当技術者（3名まで）及び照査技術者（1名）（以下、「配置予定技術者」といいます。）を配置（各技術者の兼任は不可）すること。

管理技術者は、次に掲げる①の資格を有すること。照査技術者は、次に掲げる①～⑤のいずれかの資格を有すること。なお、②及び③にあたっては「都市及び地方計画」、④及び⑤にあたっては「都市計画及び地方計画」の資格を有すること。

- ① 一級建築士
- ② 技術士（総合技術監理部門（建設））
- ③ 技術士（建設部門）
- ④ 建設コンサルタント登録規程第3条第1号ロに該当する者
- ⑤ シビルコンサルティングマネージャ（RCCM）

また、配置される技術者は直接的な雇用関係（代表者可）にある者とし、そのうち管理技術者にあつては「プロポーザル参加資格確認申請書」の提出の日以前に3か月以上の雇用関係（代表者可）にあること。ただし、照査技術者については、再委託できるものとする。

3. 手続き等

(1) 担当部局

〒630-8501 奈良市登大路町 30 番地
奈良県 総務部知事公室 防災統括室
防災拠点係（県庁舎東棟2階）

TEL：0742-27-8091 FAX：0742-23-9244

(2) 参加表明書作成に関する質問の受付・回答及び参考資料の貸与

①提出方法 質問がある場合は、FAX（任意様式）で提出し、電話にて受信の確認をすること。

②提出先 担当部局

③受付期間 令和4年5月12日（木）正午まで

④回答 令和4年5月16日（月）に下記アドレスの奈良県ホームページに掲載する。

アドレス：<https://www.pref.nara.jp/1624.htm>

⑤貸与方法 業務説明書6（参考資料の貸与について）記載の参考資料の貸与を希望する場合は、②提出先の担当部局において貸与します。

・令和4年6月3日（金）正午まで

ただし、通常開庁時間帯に限ります。

※貸与希望日時を事前に担当部局まで電話にて連絡すること。

※貸与資料の返却期限は下記（5）①提出期限までとします。

（返却方法については、その際、指示します。）

(3) 参加表明書の提出

①提出期限 令和4年5月19日（木）正午まで

②提出先 担当部局

③提出物 参加表明書（以下の様式及び添付資料）

- 様式1 参加表明書
- 様式2 企業の元請実績
- 様式3 予定管理技術者の資格等
- 様式4 予定担当技術者の資格等
- 様式5 予定照査技術者の資格

④提出方法 持参又は郵送によります。

なお、郵送の場合は、書留郵便に限ります。また、封筒の表に「参加表明書在中」の旨を朱書きしてください。

⑤提出部数 1部

(4) 技術提案書提出者の選定及び通知

①選定について

参加表明書について、「4. 受託業者を特定するための評価基準」のうち、「配置予定技術者（企業）の経験及び能力」（18点分）について審査し、上位5者程度選定します。

②通知について

参加表明書を提出した者に対して、①により選定された場合は「技術提案書提出依頼書」により技術提案書の提出を依頼します。また、①により選定されなかった場合は「非選定通知書」により通知します。

③非選定理由の説明申請について

非選定通知書を受けた者は、非選定通知書の通知日の翌日から起算して5日（奈良県の休日を定める条例（平成元年3月奈良県条例第32号）第1条第1項に規定する県の休日（以下「県の休日」といいます。）を除く。）以内にその理由の説明を書面により求めることができます。

(5) 技術提案書の提出

①提出期限 令和4年6月3日（金）正午まで

②提出先 担当部局

③提出物 ・技術提案書（以下の様式及び添付資料）

様式7 技術提案書

様式8 業務の実施方針

様式9-1 評価テーマ1に関する技術提案

様式9-2 評価テーマ2に関する技術提案

様式9-3 評価テーマ3に関する技術提案

・参考見積

別紙「業務説明書」の全ての業務（技術提案書の内容を含む）に要する費用について記載すること。別紙「設計内訳書」を参考に記載してください。

④提出方法 持参又は郵送によります。

なお、郵送の場合は、書留郵便に限ります。また、封筒の表に「技術提案書在中」の旨を朱書きしてください。

⑤提出部数 1部

(6) 技術提案書作成に関する質問の受付及び参考資料の閲覧（貸与）方法

別途、技術提案書の提出依頼の通知時に指定します。

なお、貸与可能な参考資料は、業務説明書6（参考資料の貸与について）に記載の

資料を予定しています。

(7) ヒアリング実施の有無等

実施しません。

(8) 受託業者の特定

①特定について

提出された参加表明書及び技術提案書について、後述する「4. 受託業者を特定するための評価基準」(合計100点)に基づき審査し、最高得点者を受託業者として特定します。

②通知について

技術提案書を提出した者には、特定された場合は「特定通知書」、特定されなかった場合は「非特定通知書」により通知します。

③非特定理由の説明申請について

非特定通知書を受けた者は、非特定通知書の通知日の翌日から起算して5日(県の休日を除く。)以内にその理由の説明を書面により求めることができます。

(9) その他

事務局

〒630-8501 奈良市登大路町30番地

奈良県 総務部知事公室 防災統括室

防災拠点係 (県庁舎東棟2階)

TEL: 0742-27-8091 FAX: 0742-23-9244

4. 受託業者を特定するための評価基準

別紙1のとおり

5. 参加表明書の作成等

(1) 作成及び提出に係る費用は、提出者の負担とします。

(2) 参加表明書の表紙は様式1により作成してください。また、すべての添付資料のサイズはA4以上とすることとし、複数の添付資料で実績を証明する場合は、業務年度・業務名・業務場所・業務番号等が確認でき、同一業務の関連資料であることが判断できるもの(変更がある場合は最終のもの)を提出して下さい。配置予定技術者の実績については氏名(フルネーム)等が整合できるものを提出して下さい。(文字等の判読困難である場合又実績が明確に確認できない場合は、評価の対象外とする場合があります。)

(3) 企業の元請実績

「2. 参加資格」の(7)に掲げる資格があることが判断できる実績を1件以上、様式2に記載してください。実績は元請として受注したものに限るものとし、下請、協力会社、再委託先等、元請として受注していないものは実績として認めません。一般財団法人日本建設情報総合センターの「測量調査設計業務実績情報システム(以下「テクリス」といいます。)」におけるテクリス完了登録(登録内容確認書(業務実績))等の写しを添付してください。またテクリス完了登録(登録内容確認書(業務実績))等で業務内容が判断できない場合は、業務カルテ、業務計画書の写し等、実績が明確に確認できる資料を添付してください。

また、テクリス完了登録(登録内容確認書(業務実績))等がない場合は、契約書

の写し、業務カルテ受領書（契約登録、変更登録、訂正登録）又は登録内容確認書（契約登録、変更登録、訂正登録）の写しを添付し、かつ業務内容が判断できる業務計画書の写し等、実績が明確に確認できる資料を添付してください。また、業務が完了していることが判断できる委託業務等成績評定通知書等、完了実績が明確に確認できる資料を添付してください。

また、合併又は社名変更等を行っている場合は、商号又は名称が確認できる資料（商業登記簿等）を添付して下さい。

添付資料により実績が明確に確認できない場合は、本プロポーザルへの参加ができません。

- (4) 配置予定技術者の資格等について、様式3、様式4及び様式5に記載してください。
なお、様式4は、複数名分（3名まで）提出することができます。また、評価にあたっては、提出された配置予定担当技術者ごとに採点し、評価点の平均値を採用します。ただし、様式3、様式4及び様式5を「2. 参加資格」の（8）に掲げる人数を超過している場合は、評価の着目点毎に技術点の平均値が最も低くなる者の技術点を採用します。また、下記イにおける業務実績について、提出のあった各様式に記載の実績数が提出を求める実績数の制限を超過している場合は、それぞれの技術点が最も低くなる業務実績を採用します。

ア 保有資格（様式3、様式4及び様式5）

「2. 参加資格」の（8）に掲げる資格及び別紙1で指定する資格について記載のうえ、当該資格を有することを証明する書類（資格証の写し等）を添付してください。

添付資料により「2. 参加資格」の（8）に掲げる資格（雇用関係は除く）が明確に確認できない場合は、本プロポーザルへの参加を認めず非選定となります。

イ 同種業務の実績（様式3及び様式4）

管理技術者又は担当技術者として従事し、平成24年4月1日以降、本業務における公告日までに完了した別紙1で指定する同種業務の実績を2件まで記載することができます。

なお、実績がある場合には、テクリス完了登録（登録内容確認書（業務実績））等の写しを添付してください。またテクリス完了登録（登録内容確認書（業務実績））等で業務内容が判断できない場合は、業務カルテ、業務計画書の写し等、実績が明確に確認できる資料を添付してください。

また、テクリス完了登録（登録内容確認書（業務実績））等がない場合は、契約書の写し、業務カルテ受領書（契約登録、変更登録、訂正登録）又は登録内容確認書（契約登録、変更登録、訂正登録）の写しを添付し、かつ業務内容が判断できる業務計画書の写し等、実績が明確に確認できる資料を添付してください。また、業務が完了していることが判断できる委託業務等成績評定通知書等、完了実績が明確に確認できる資料を添付してください。

- (5) 参加表明書に記載した配置予定技術者を変更、追加することはできません。受託業者となった際も、これ以外の者をテクリス登録することは認めません。また、参加表明書様式3、様式4及び様式5に記載した配置予定技術者が「2. 参加資格」の（8）に掲げる人数を超過している場合においては、記載した配置予定技術者のうち、「2. 参加資格」の（8）に掲げる人数のみしか、テクリス登録することは認めません。

なお、受託後の業務実施にあたって、配置予定技術者を変更できるのは、死亡、傷病、出産、育児又は退職等の特別な理由により、同等以上の技術者に変更する場合に限りま

す。また、変更にあたっては、変更を必要とする理由及び変更後の技術者について発注者が求める資料を提出し、了解を得なければなりません。

(6) その他

ア 提出された参加表明書は、内容の審査以外に提出者に無断で使用しません。

イ 提出された参加表明書は返却しません。

ウ 提出された参加表明書の提出期限以降における再提出は認めません。

なお、提出期限内であっても、部分的な差し替え及び追加は認めません。また、提出期限内に再提出があった場合は、最後に到達したのもののみを審査の対象とします。

エ 提出された参加表明書が適正でない場合（未記載を含みます。）は本プロポーザルへの参加を認めず非選定となります。

6. 技術提案書の作成等

(1) 作成及び提出に係る費用は、提出者の負担とします。

(2) 技術提案書の表紙は様式7により作成してください。

(3) A4縦長片面とし、文字は10.5ポイント以上とします。

図表中の文字が判読しがたい場合は、評価の対象としません。

また、様式8、様式9-1、様式9-2及び様式9-3において、下記(4)、(5)で提出を求めた枚数を超過した場合は、超過したページ（提出された様式の後ろのページ）に記載された提案は、評価の対象としません。

右肩の（商号又は名称）以外に商号又は名称を記載してはなりません。

書類の作成に用いる言語は日本語、通貨は日本円、単位は日本の標準時及び計量法によるものとします。

(4) 業務の実施方針

業務の実施方針（業務理解度）、実施フロー、工程表（工程計画）、実施体制等について様式8に記載してください。記載する際には、別紙1における判断基準ごとに設定された記載欄に提案内容を記載して下さい。他の欄に記載しても、評価の対象としません。

枚数はA4（片面）2枚以内とします。なお各記載欄の大きさの配分は任意で設定していただいて構いません。また、記載欄の大きさの配分上、1つの記載欄が複数枚にまたいでも問題ありませんが、どの判断基準に基づいた提案か明確に判断できない場合は、評価の対象外とします。

(5) 評価テーマ

別紙1「受託業者を特定するための評価基準」に記載されている評価テーマに関する技術提案について、評価テーマ1を様式9-1に記載、評価テーマ2を様式9-2、評価テーマ3を様式9-3に記載してください。記載する際には、別紙1における判断基準ごとに設定された記載欄に提案内容を記載して下さい。他の欄に記載しても、評価の対象としません。なお各記載欄の大きさの配分は任意で設定していただいて構いません。

様式9-1、様式9-2及び様式9-3ともにA4（片面）1枚以内とし、一方の提案を他方の様式に記載しても、評価の対象となりません。

(6) 参考見積について

提出された参考見積において、1.(4)で示す業務量の目安の限度額を超えている場合又は業務説明書に記載されている業務項目に対応する見積項目が不足してい

る場合については、特定しません。

(7) 辞退について

技術提案書の提出を辞退する場合は、辞退届（任意様式）を提出すること。

(8) その他

ア 提出された技術提案書は、内容の審査以外に提出者に無断で使用しません。

イ 特定されなかった提出者の技術提案書は返却します。

ウ 提出された技術提案書の提出期限以降における再提出は認めません。

なお、提出期限内であっても、部分的な差し替え及び追加は認めません。また、提出期限内に再提出があった場合は、最後に到達したもののみを審査の対象とします。

エ 提出期限までに技術提案書の提出がなく、辞退届の提出もない場合には、提出期限を経過した時をもって辞退したものとみなします。

オ 提出された技術提案書が適正でない場合（未記載及び技術提案等の内容が技術提案書提出者独自の提案でないことを確認した場合を含みます。）又は提案を求めている事項が1つでも欠落している場合は無効となります。

カ プロポーザルは調査、検討、及び計画業務における具体的な取り組み方法について提案を求めるものであり、成果の一部（図面、模型写真、透視図等）の作成や提出及び業務内で検討し決定する具体的な内容について提案を求めるものではありません。なお、これに逸脱する内容を含む技術提案書については、提案を減点又は無効とする場合があります。

キ 原則としてプロポーザルを理由とした職員等に対するヒアリングは禁止します。

ク 提出書類について、この書面及び別添の書式に示された条件に適合しない場合は無効とすることがあります。

7. 参加資格の確認

(1) プロポーザル参加資格確認申請書等の提出について

受託業者として特定された者は、参加資格確認申請書及び参加資格確認資料（以下「参加資格確認申請書等」といいます。）を次の表により提出し、参加資格があることの確認を受けなければなりません。ただし、参加資格のうち、入札参加停止の有無、奈良県建設工事等競争入札参加資格の登録及び、配置予定技術者の資格（雇用関係は除く）については、参加表明書の提出時においても確認を行うものとします。

対象書類	・プロポーザル参加資格確認申請書（様式S1） ・配置予定技術者の資格等に関する報告書（様式S3） 上記様式に添付すべき書類の写し
提出先	担当部局
提出方法	持参
作成・提出にかかる費用	申請者負担

(2) プロポーザル参加資格確認申請書等の作成等

プロポーザル参加資格確認申請書等は、下記ア及びイのとおりとし、次に従い作成してください。

ア 建設コンサルタント業務の参加資格等を記載した書面

「2. 参加資格」の（6）に掲げる資格があることを示す書面を様式S1により作成してください。建設コンサルタント登録規程（昭和52年4月15日号外建設省告示第717号）第2条に基づく登録年月日及び登録番号、奈良県建設工事等競争入札

参加資格の登録部門を記載してください。その内容を確認できる資料として、建設コンサルタント登録規程第7条の規定による現況報告書（直近のもので地方整備局の受付印を押印したもの）の表紙を添付してください。

イ 配置技術者の資格等に関する報告書

「2. 参加資格」の（8）に掲げる資格等があることを示す書面を様式S3-1及び様式S3-2により作成してください。その内容を確認できる資料として、資格等を証明する書面の写し等及び雇用関係を証明する書面（健康保険証の写し等）を添付してください。

なお、管理技術者については、プロポーザル参加資格確認申請書の提出の日以前に3か月以上の雇用関係（代表者可）にある者であること。

また、この様式で提出する配置予定技術者は、参加表明書様式3、様式4及び様式5で提出した配置予定技術者と同じ技術者でなければなりません。ただし、参加表明書様式3、様式4及び様式5に記載した配置予定技術者が「2. 参加資格」の（8）に掲げる人数を超過している場合においては、記載した配置予定技術者のうち、「2. 参加資格」の（8）に掲げる人数のみしか認めません。

(3) その他

ア 提出されたプロポーザル参加資格確認申請書等は、参加資格の確認以外に提出者に無断で使用しません。

イ 提出されたプロポーザル参加資格確認申請書等は、返却しません。

ウ 提出されたプロポーザル参加資格確認申請書等の提出期限（追加指示した場合等で別途提出期限を定めた場合は、その期限）以降における差し替え、追加及び再提出は認めません。期限までに提出されない場合は失格となります。

8. その他

(1) 契約の締結

「3. 手続き等の（8）受託業者の特定」により特定した者と契約を締結する。ただし、契約締結までの間に、競争入札参加資格の制限又は入札参加停止を受けた場合は、契約を締結しません。

(2) 契約保証金

奈良県契約規則（昭和39年5月規則第14号）第19条の定めるところによるものとします。

(3) 本業務説明書及び閲覧資料により得た情報は、参加表明書又は技術提案書の作成以外の目的に使用してはなりません。

(4) 本業務説明書及び特定された技術提案書に基づき、特記仕様書を作成することとし、この特記仕様書に基づき契約することとします。

(5) 本業務の履行にあたっては、別途作成する特記仕様書によるほか、奈良県県土マネジメント部が定める「土木設計業務等共通仕様書」によるものとします。

(6) 代表者又は受任者（競争入札参加資格審査申請において、代表者から契約締結権限等の委任を受けている者をいいます。）に変更がある場合は、速やかに「競争入札参加資格審査申請書記載事項変更届出書」を提出してください。

なお、変更の事実発生以降は、変更後の契約締結権限等を有する者の名義で入札手続きを行ってください。

(7) 契約締結後、受注者が次のいずれかに該当すると認められるときは、契約を解除す

ることがあります。

また、契約を解除した場合は、違約金支払義務が生じます。

- ① 役員等（法人にあっては役員（非常勤の者を含む。）、支配人及び支店又は営業所（常時建設工事等契約に関する業務を行う事務所をいう。以下同じ。）の代表者を、個人にあってはその者、支配人及び支店又は営業所の代表者をいう。以下同じ。）が暴力団員（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号。以下「暴対法」という。）第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であると認められるとき。
 - ② 暴力団（暴対法第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）又は暴力団員が経営に実質的に関与していると認められるとき。
 - ③ 役員等が、その属する法人、自己若しくは第三者の不正な利益を図る目的で、又は第三者に損害を与える目的で、暴力団又は暴力団員を利用していると認められるとき。
 - ④ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を提供し、又は便宜を供与する等直接的若しくは積極的に暴力団の維持及び運営に協力し、又は関与していると認められるとき。
 - ⑤ 前②に掲げる場合のほか、役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。
 - ⑥ この契約に係る下請契約又は資材及び原材料の購入契約等の契約（以下「下請契約等」という。）に当たって、その相手方が前各号のいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。
 - ⑦ この契約に係る下請契約等に当たって、①から⑤までのいずれかに該当する者その相手方としていた場合（前号に該当する場合を除く。）において、発注者が当該下請契約等の解除を求めたにもかかわらず、それに従わなかったとき。
 - ⑧ この契約の履行に当たって、暴力団又は暴力団員から不当に介入を受けたにもかかわらず、遅滞なくその旨を発注者に報告せず、又は警察に届け出なかったとき。
- (8) 上記(7)⑧の届出を怠った場合は、「奈良県建設工事等請負契約に係る入札参加停止措置要領」に基づく入札参加停止措置を行う場合があります。
- (9) 平成27年4月1日に奈良県公契約条例（平成26年7月奈良県条例第11号。以下「条例」という。）が施行されました。本業務を受注しようとする者は、条例で規定される以下の遵守事項等を理解した上で受注してください。
- ① 奈良県公契約条例の趣旨にのっとり、公契約の当事者としての社会的責任を自覚し、本工事を適正に履行すること。
 - ② 本工事の履行に当たり、次に掲げる事項その他の法令を遵守すること。
 - ア 最低賃金法第4条第1項に規定する最低賃金の適用を受ける労働者に対し、同法第3条に規定する最低賃金額（同法第7条の規定の適用を受ける労働者については、同条の規定により減額して適用される額をいう。）以上の賃金（労働基準法第11条に規定する賃金をいう。）の支払を行うこと。
 - イ 健康保険法第48条の規定による被保険者（同法第3条第4項に規定する任意継続被保険者を除く。）の資格の取得に係る届出を行うこと。
 - ウ 厚生年金保険法第27条の規定による被保険者（同条に規定する70歳以上の使用される者を含む。）の資格の取得に係る届出を行うこと。
 - エ 雇用保険法第4条第1項に規定する被保険者について、同法第7条の規定による

届出を行うこと。

オ 労働保険の保険料の徴収等に関する法律第4条の2第1項の規定による届出を行うこと。

- ③ 本業務の一部を、他の者に請け負わせようとするときは、当該他の者に対し、この遵守事項を周知し、遵守するよう指導すること。

以上